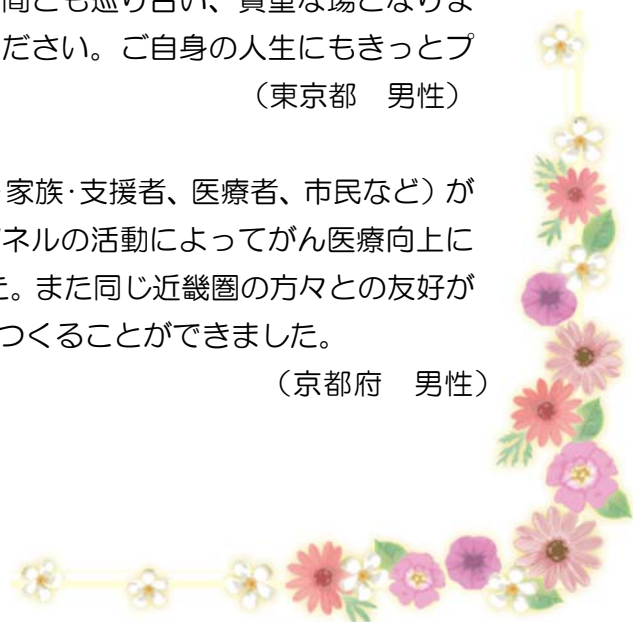
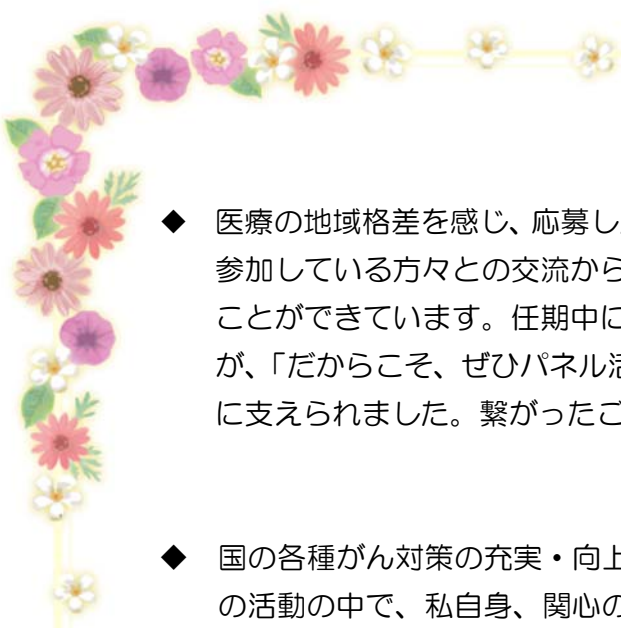




# メンバー経験者からの声

- ◆ 初回の検討会で、出会ったパネルの皆さんの力強さに圧倒されたことを今でも鮮明に覚えています。その出会いが私の原動力となりました。様々なパネルの活動に参加するたびに「正しい情報を知ることは安心感を得たり、選択の幅を広げたりすることにつながる。」と感じ、「もっと知りたい、伝えたい。」という気持ちが芽生えました。また伝えることやパネル仲間と情報交換をすることが自分自身の支えにもなりました。このパネル仲間とのご縁やつながりは様々な意味で大きな力となります！ (宮城県 女性)
- ◆ 最初は、日本のがん対策は？と必死で情報を集めていましたが、やはり心強いのは全国から集まった“同志”との交流です。今まで県内で活動し、視野が狭かった自分を反省しつつ、自県のがん対策他を考えるようになり、視野が広がりました。そして、つぎは、その思いを動きに変え、今まで訪れていなかった公共施設へと訴える事が出来ています。自分の疾患を見つめつつ、他の方へも目を向けるには患者・市民パネルは必須だと感じています。また、全国の方々との交流では、ストレス解消の後に大きな力！希望！勇気！をいただきました。私の気持ちを次なる方へバトンを渡したく感じます。ありがとう！患者・市民パネル最高！ (徳島県 男性)
- ◆ パネル任期の間に全国にできた仲間は私の一生の宝物です。パネル検討会で出会ったのが縁で近県の患者会との交流が生まれ、セミナーや講習会でお互いの県を訪問、情報交換して地元での活動のヒントをいただいたり、活動のパワーの源になったりしています。迷っている方、まずは飛び込んでみてください！ (秋田県 女性)
- ◆ これから益々がん患者は増えていき、働くがん患者も増えていくと思われます。私は38歳でがんを発病し、辛い闘病生活を乗り越えた経験を持ち、その体験は働きながら闘病生活をしなければならない現役世代の方々にぜひ伝えていきたいと思い、パネルに応募しました。そこでは同じような体験を持つパネル仲間とも巡り合い、貴重な場となりました。皆さんもぜひその体験を世の中に還元してください。ご自身の人生にもきっとプラスになること間違いありません。 (東京都 男性)
- ◆ 「全国には同じような考えをもったの方々（がん患者・家族・支援者、医療者、市民など）が他にもたくさんいるんだなぁ～」と感じました。パネルの活動によってがん医療向上に係る活動の意義・目的を再確認することができました。また同じ近畿圏の方々との友好が深まり、パネルでの活動をきっかけに多くの仲間をつくることができました。 (京都府 男性)



- 
- ◆ 医療の地域格差を感じ、応募した私。今まで知らなかった取り組みだけでなく、全国から参加している方々との交流から多くを学びました。それを持ち帰り、患者活動に活かすことができています。任期中に新たながんが見つかり、任期途中での辞退も考えましたが、「だからこそ、ぜひパネル活動に参加してほしい」という参加している皆さんの言葉に支えられました。繋がったご縁は、今から先もずっとずっと私の大切な宝物です。

(福岡県 女性)

- ◆ 国の各種がん対策の充実・向上にみんなで知恵を出して取り組む「患者・市民パネル」の活動の中で、私自身、関心の強かった「がんと就労アンケート」への回答をきっかけに、微力ながら貢献できたと感じており、自分の活動の場や人脈も広がりました。また、パネルのメンバー同士がお互いのエネルギーや情報を交換することで、各人の活動や生き方を太く強くし、がん対策に関する現場レベルでの各人の影響力を広げていけることも、「患者・市民パネル」参加の大きな魅力です。

(東京都 男性)

- ◆ たった今、この患者・市民パネル募集要項を目にされた「あなた」。私はラッキーな方だと思います。とてつもなく辛い体験をされた方。今も続いている方もきっといらっしゃるでしょう。パネルとして、その体験を、今の気持ちを、身内にさえあまり話したことがないことまでも、人に伝えると落ち着きを取り戻すかもしれません。この活動が患者と家族などへの直接的・間接的なサポートに繋がると信じています。まずは、応募してみようじゃありませんか。「あなた」のことです。

(広島県 男性)

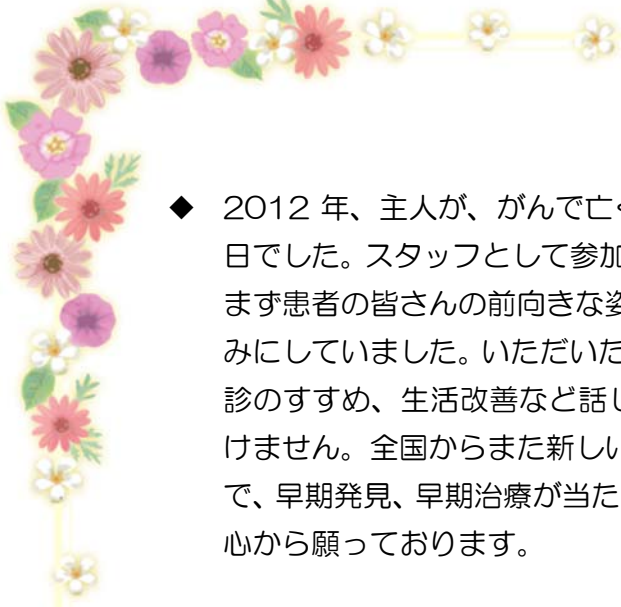
- ◆ 患者・市民パネルの活動を通して、全国でさまざまな活動をしている患者仲間と出会いました。年齢も性別も超えた仲間が同じ思いで活動している姿は、私に新しい生き方を歩む勇気を与えてくれました。患者・市民パネルは医療の専門家と患者の間を橋渡しする重要な活動です。困っている患者さんのためにも、そしてあなた自身のためにも最初の1歩を踏み出してみませんか。私にとってパネルの経験は生涯の財産になりました。本当にありがとうございました。

(千葉県 男性)

- ◆ 希少がんで、心細い気持ちで参加しましたが、全国のバイタリティ溢れる患者さんや支えている患者家族の方々と交流し、一生お付き合いができる方々にお会いできたことは自分の財産となりました。ひとりで悶々と考えている時間は勿体ないです。ご縁は必要な方と繋がることができます。自分の偏った考え方がパネルの方々と会うことで改めることができました。これから応募される方、『ひとりじゃない』と思えるはずです。ぜひ応募されて仲間を増やしてください。

(秋田県 女性)



- 
- ◆ 2012年、主人が、がんで亡くなりました。こうすれば、あーすればと後悔ばかりの毎日でした。スタッフとして参加していたがんサロンからの情報でパネルに参加しました。まず患者の皆さんの前向きな姿に感動し励まされ、年2回会議に参加できることを楽しみにしていました。いただいた情報や我が家の体験など地元で話し、40代の事業者に検診のすすめ、生活改善など話していますが、仕事優先の生活でなかなか実践していただけません。全国からまた新しいメンバーが参集し、私たちOBも継続的に活動することで、早期発見、早期治療が当たり前の日本になり、正しいがん情報が皆さんに届くことを心から願っております。  
(島根県 女性)

- ◆ 患者・市民パネルに参加する前、がんに関わる「何か」活動をしたいと考えていました。しかし、自分で何ができるかわからず、「何か」を見つける意味もあって、パネルの活動に関わりました。そこで全国の多くの患者活動をしている方々と出会い、それをきっかけに地元で若年のがん患者さんの会を立ち上げることができました。パネルの活動への参加が無ければ一歩を踏み出すことはできなかったもので、パネルの活動に参加して良かったと思っています。  
(愛知県 女性)

- ◆ この活動期は、がんサバイバーにとって一区切りの「5年」と重なることになり、思い入れ深い活動となりました。参加して良かったことは闘病経験、職業上得てきた知見を提供できたことですが、提供できた事柄よりも、パネルそれぞれの方の病気に対する向き合い方に共感し、励まされ、触発されたことが何よりの私自身の財産となり、寛解後の月日乗り越えてきた礎となりました。これからもパネルを見守り、これをご縁に知り合った方々と関係を続けていきたいと思えます。  
(兵庫県 男性)

